

対立実を明らかにする!

	学生会議派	全学連派	統一会議派	全学連統一派
反戦斗争の方針について	ベトナム戦争は米帝の侵略と中ソの軍事対抗によってたらされており、我々はベトコンのよい闘争として「七〇年安保粉碎」を叫んで「人民の力」と美化できず、階級対立を国家間。ベトコンのよいを「人民武斗」として美しく立にすりかえ、しかもそれが中ソの軍事力に依化し、米国や西欧のスター・リニスム的市民批判じめられていく。中国核実験は権力政治の論理的運動を賞賛し、ソ連を「現代修正主義にはまりこんだもので、我々はこの國際反戦主義、中国の反米武力総路線を「部分的に」争の歪曲をのりこえ「米帝のベトナム侵略反対・評価すると観念する。(現代の中ソに於く中国核実験反対)のプロ・イシターに立った革命で歪曲されていゝ國際反戦斗争の問題を認的反戦斗争を組む。それは又、日本での社共の説法しえず、たしかその「戦斗性」に目をうか主義的反米民族主義をのりこえ、日帝の帝国主ばれて世界同時革命を云々する觀念主義的諸攻勢、とりわけ七〇年安保改訂に対する大。それは又日本での社共的運動をのりこえ、象半島の革命的展開の展望にたった半いでもあることの欠如、即ち反帝斗争の單純対立)	「世界同時革命」と「日帝打倒」と「西よってもたらされており、我々はベトコンのよい闘争として「七〇年安保粉碎」を叫んで「人民の力」と美化できず、階級対立を国家間。ベトコンのよいを「人民武斗」として美しく立にすりかえ、しかもそれが中ソの軍事力に依化し、米国や西欧のスター・リニスム的市民批判じめられていく。中国核実験は権力政治の論理的運動を賞賛し、ソ連を「現代修正主義にはまりこんだもので、我々はこの國際反戦主義、中国の反米武力総路線を「部分的に」争の歪曲をのりこえ「米帝のベトナム侵略反対・評価すると観念する。(現代の中ソに於く中国核実験反対)のプロ・イシターに立った革命で歪曲されていゝ國際反戦斗争の問題を認的反戦斗争を組む。それは又、日本での社共の説法しえず、たしかその「戦斗性」に目をうか主義的反米民族主義をのりこえ、日帝の帝国主ばれて世界同時革命を云々する觀念主義的諸攻勢、とりわけ七〇年安保改訂に対する大。それは又日本での社共的運動をのりこえ、象半島の革命的展開の展望にたった半いでもあることの欠如、即ち反帝斗争の單純対立)	ベトナム戦争は米帝の侵略による。ベトナム戦争の解決はベトコンの政治的軍事的勝利「社会主义日本」を中心とした反帝斗争にあるという。したがってソ連の軍事援助が米帝の侵略の中で大きな意義と位置を担っている。(彼らは解決のために自ら政府に圧力をかけ、中立化を勝ちとり、米帝を孤立化させることという。だがこれは、国际的な労働者人民の連帯から切断して、一口的規模の斗争に矮小化しているものであり、ソ連の軍事援助に意義を与えるという全く反帝的対応でしかない。)	彼らは「ベトナム戦争は米帝の侵略であり、全く不正義の戦争だ。我々は、日本の地で反米斗争を行なはなくてはならない。そうすることが米日反戦への打撃を加えることになりそれは我々の為であり同時に南ベトナム人民のためである」という。(彼らは日本での反米斗争を、ベトナム人民支援として、それは反戦斗争ではなくて反米斗争であり、プロレタリアインターナショナリズムを民族主義的に歪めている。このような民族主義的な斗争ではアメリカの労働者を立ち上げさせない)
沖縄問題について	沖縄問題はかの講和条約第三条によつて日米帝の合意下に日本から沖縄が切離されたということ日本にヒラセたいことが我々の仕事であるに歴史的根柢をもつ。現在日帝は「沖縄は日本の」(反帝斗争主義的視角から沖縄基地を、土地)というフルショア民族主義を鼓吹して、沖縄を単純な日米帝の対立として引き出し、沖縄の核基地付返還を狙っている。従つて沖縄問題にすきない。沖縄問題の個別斗争論は決して民族問題でなく、我々は社共による沖縄としての解明が何らなしらず、更に大衆返還要求運動をのりこえ、講和条約第三条の破棄争の延長上に革命斗争を夢みる誤まりを犯して、沖縄人民の解放をめざしたところの日米帝の帝国主義的野望粉碎の斗争を組むのである。	「沖縄基地を日本からとる久米帝がどうかーーの合意下に日本から沖縄が切離されたということ日本にヒラセたいことが我々の仕事であるに歴史的根柢をもつ。現在日帝は「沖縄は日本の」(反帝斗争主義的視角から沖縄基地を、土地)というフルショア民族主義を鼓吹して、沖縄を単純な日米帝の対立として引き出し、沖縄の核基地付返還を狙っている。従つて沖縄問題にすきない。沖縄問題の個別斗争論は決して民族問題でなく、我々は社共による沖縄としての解明が何らなしらず、更に大衆返還要求運動をのりこえ、講和条約第三条の破棄争の延長上に革命斗争を夢みる誤まりを犯して、沖縄人民の解放をめざしたところの日米帝の帝国主義的野望粉碎の斗争を組むのである。	彼らは「沖縄の即時無条件全面返還、基地撤去」という。彼らは沖縄の支配権力を日本と米帝の二元的支配と規定し、沖縄を日本の下に帰属せしめ、平和憲法適用して反独占民主主義の拡大をはかるという。(まづ沖縄の支配権力の規定が全く曖昧で、反独占民主主義勢力を基に、政府ハ政策転換をお願していくといふブルニョア民主主義以外の何物でもない)	彼らは「沖縄返還は日本の独立の問題であり、アメリカの戦争努力をアジアから追いだす叫り」という。(沖縄は米帝による全面占領、本土は半占領をして、全体は半占領状態にあると位置づける。彼らは沖縄を民族民主主義革命から位置づけるのだ。法的に日本が独立していふことを抹殺している。沖縄問題は民族問題でなく労働者の立場から斗争問題だ。)
学生戦線の統一について	学生戦線が四分五裂している現状を克服するためには諸々の共通課題を強固に実現するための共斗戦略を依り出し、そこでの思想斗争を媒介としの反帝斗争の過程で日和見主義は崩壊して、行動上の統一を実現する中で組織的統一に向いく。(思想斗争におけるヘモニーの貴題が採え返されることである。思想斗争を保証する三派「全学連」を基準とした統一行きの共斗戦略の恒常的確立なくして、いかなる行動もセクト的に分かつてはならない。統一行動上の統一を以てしてもそれは場合に終止する。勿の組織論的解明はゼロに等しい。それは他の思想斗争においてヘモニーの貫徹をめざすの学派は日和見主義であるという「解釈」であるか、そのことと「全学連」を基準とした統一基づくもの。大〇年安保以降の自らの抱著一行動というセクト主義とは同じことではない。から何一つ学ばっていないおそれ)	「学生運動の先駆性」(学生戦線)とし、最も統一行動など問題でなく「戦う部隊」としての思想斗争を媒介としの反帝斗争の過程で日和見主義は崩壊して、行動上の統一を実現する中で組織的統一に向いく。(思想斗争におけるヘモニーの貴題が採え返されることである。思想斗争を保証する三派「全学連」を基準とした統一行きの共斗戦略の恒常的確立なくして、いかなる行動もセクト的に分かつてはならない。統一行動上の統一を以てしてもそれは場合に終止する。勿の組織論的解明はゼロに等しい。それは他の思想斗争においてヘモニーの貫徹をめざすの学派は日和見主義であるという「解釈」であるか、そのことと「全学連」を基準とした統一基づくもの。大〇年安保以降の自らの抱著一行動というセクト主義とは同じことではない。から何一つ学ばっていないおそれ)	彼らは「单一全学連のための自治会主体による課題別に「共斗」という。(自治会共斗といつてもそれをいかに組織的統一へと高めるか、それをなすための思想斗争をここでなすか=共斗戦略のことが何を語らぬ)。一日共斗を何回重ねても組織的統一は実現しない。とくに主流派にあっては七月全国自治会共斗なるものをテッサ上げるという分裂固定化のセクト主義まる出し)	主ゆる要求を基ととしたみんなの自治会活動をつくり「全学連」の旗の下に民主勢力と共に斗う。そして要求の根源にあるアメリカに斗わなくてはならない。そしてアメリカとの斗いと共に、トロッキスト=敵の守衛とも斗い彼らを断呼自治会活動から追いでいる。(主ゆる要求→反文部省→反アメリカという構造のエセ民主主義路線でいふところではない)

学生会議派

全学区

文学部区